

# 学校だより

学校だより 2月号  
令和5年2月1日  
発行者 外日角小学校  
TEL 283-0040

## 「人」の「間」 ～ 『Face to Face』 ～

校長 稲垣 一郎

例年以上に厳しい冬ですが、もうすぐ立春。コロナ禍の中、我慢する時期が続いていますが、今年こそはこの感染症が終息し、ある程度元に近い生活環境が戻ってくることを願うばかりです。

先日、ある雑誌を見ていてある言葉を思い出しました。それは、元三洋電機の副社長だった故後藤清一氏の有名な言葉です。

### 「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」

人の土台づくりには、様々な体験や経験が必要となってきます。バーチャルの世界だけでは、真の土台とはなっていきません。

本校では、「自ら考え、学びあう子をめざす」ために、『表現力』をテーマに研究を行っています。対話的な活動が制限される中でも、できるだけ友達と意見を交わしながら自らの考えを深めていくことができるようにと考えています。昨年末、一人一台のタブレットが配付され、デジタルによる学習が可能になってきました。しかし、SNS等の浸透により、たくさんの情報の中から一人一人が選択しなければならない時代になりました。その際、大切なことは、自分で考え判断する力を培うことが、先の見えない時代を生き抜いていけることに繋がっていくと考えます。反面、タブレットが配付されたことにより、一人一人の進捗状況を確認したり、個別の課題に取り組むことができたりと多様な学習方法が可能になります。現在、私たち教員も「どのようなことができるか」「どのように活用するとより効果的か」などの研修を行い、有効に活用できる方法を研究しています。冬休みの期間中、それぞれの家庭に持ち帰りましたが、いかがだったでしょうか。1年生にとっては、これから6年間の蓄積が残されていきます。ぜひ、子ども達の学習の積み重ねを見守っていただければと思います。

さて、タブレットの活用も大切ですが、その中でも「Face to Face」なくして子ども同士の共感  
は生まれてこないのではないのでしょうか。ソーシャルディスタンス（社会的距離）という言葉がよく使われますが、これは物理的なディスタンスのことであり、ソーシャルは相手と向き合うこと  
によって成立するのだと考えます。人間は、人と会った瞬間に共感が生まれます。ですから、デジタルでは本当の意味で相手の視点に立つことができず、真の共感は生まれにくいのではないかと思  
います。人との関わりがあれば、時に傷ついたり、ぶつかったり、悩んだりすることがあります。  
しかし、いつまでも一人で閉じこもっていても、心はいつまでも傷ついたままです。怖くても辛く  
ても一歩踏み出すことによって何か生まれてくるのではないかと考えます。人間という字に戻り  
考えてみると、やはり「人」の「間」に立つことで子ども達は成長していくのではないのでしょうか。  
人と人の繋がりをこれからも大切にしていきたいと思えます。